

Newsletter

No. 12

秋田英語英文学会



Akita Association of English Studies

AAES Newsletter No. 12

発行代表者:村上 東

2011年(平成23年)12月3日発行

発行所:秋田英語英文学会(AAES)事務局 〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部

New



Member

Adrian Paterson (エイドリアン・パターソン)

教育文化学部 国際コミュニケーション講座 講師

From



Boston

上田 由紀子

教育文化学部 国際コミュニケーション講座 准教授

ボストン滞在記

I am from New Zealand, and have lived in Japan for 13 years. My BA is a double major in English Literature and English Language from Victoria University of Wellington, where I also received a postgraduate Diploma in TESOL. My MA is in English Linguistics from Osaka University of Foreign Studies. I am currently working on my PhD through the University of Melbourne. I have taught at Matsuyama University, Tohoku Keiki Bunka University (東北公益文科大学), and now Akita University.

My research interests include vocabulary, formulaic language, language testing, and complex systems. I became interested in vocabulary acquisition in a TESOL course taught by Paul (I.S.P.) Nation. I am particularly interested in the measurement of vocabulary learning in the classroom, which lead to my interest in language testing. I developed a bilingual version of the vocabulary levels test for low-level Japanese learners of English, a conversation test of formulaic language use, and have been involved in the development of various other tests and examinations. I am also interested in formulaic language (phrases that behave more like vocabulary items), which research suggests is a large part of daily language use. I think this offers some very interesting possibilities for language teaching. Complexity theory is based on a Darwinian view of natural systems. It views languages as social constructs, which evolve over time through the interaction of individuals. My PhD research is based on a complex systems approach to the use of formulaic language in the speech of students in a study abroad program.

ボストン空港に降り立つとそこは秋田とよく似た雪国だった。

マサチューセッツ工科大学 (MIT) では、2月から春学期が始まる。教室の中は、若さと研究への熱いエネルギーに充ち溢れていた。私が最も楽しんだコースの1つは、文の意味と構造に関する問題を様々な移動や省略現象を使って解き明かして行くクラス。そのコースには、5年生になる院生が1名、TAとしてついており、その仕事を通してプログラムの中で研究者としてだけでなく、教育者としても訓練されていくことがよくわかる。

MITは、古き良き英国の伝統を強く受け継ぐ Harvard 大学とは全く異なったまさに合衆国生まれの大学である。象徴的なのは、門もなければ、大学を囲う壁もないこと。世界100カ国以上の国から学生と研究者が集まり、最先端の研究と技術を生み出す。私の属する Department of Linguistics & Philosophy でも、「英語の native speaker は誰？」と授業中に教員が尋ねるほどである。

3月の日本の震災の報道を受け、MITの多くの研究者から、「被災地で全てに耐え、協力し合う日本人の姿に感銘を受けた。日本は必ず復興する」と言われた。被災地の方々への敬意と共に、日本人としての誇りも感じたボストン生活だった。

*写真は、言語哲学科の入っている研究棟 the Stata

Special Feature

特集: 小学校「外国語活動」Elementary School “Foreign Language Activities”

英語教育オープン研修セミナー報告と秋田大学での取り組み

◆ 英語教育オープン研修セミナー報告

今回の特集は、小学校「外国語活動」のより充実した展開を支援する秋田大学での取り組みの一環をご紹介します。

今年夏に3回シリーズで開催された英語教育オープン研修会は、秋田大学「まなびの総合エリア」および科学研究費補助金の助成を受けた「地域連携による『外国語活動総合教育システム』のモデル構築と検証」という研究事業の一環として実施された研修会でした。下記のように開催されました。

第1回

- 日時: 2011年7月2日(土) 10:00-11:45
場所: カレッジプラザ
タイトル: 「自信がつく英語発音から」
講師: 島岡丘先生(筑波大学名誉教授)
- 日時: 2011年7月3日(日) 10:00-11:45
場所: 北秋田市交流センター
タイトル: 「日本語からスーパーネイティブに至る道筋—ウィットとユーモア」
講師: 島岡丘先生(筑波大学名誉教授)

第2回

- 日時: 2011年7月23日(土) 14:45-16:30
場所: 秋田大学教育文化学部
- 日時: 2011年7月24日(日) 10:00-11:45
場所: 浅舞公民館
タイトル: 「学級担任が進める課題解決型(プロジェクト型)外国語活動—児童が意欲的に取り組む活動を目指して—」
講師: 東野裕子先生(西宮市立高木小学校主幹教諭)

第3回

- 日時: 2011年7月30日(土) 10:00-11:45
場所: カレッジプラザ
タイトル: 「楽しく、気どらず、のびのびと行う外国語活動—子どもも教師もいっしょに楽しめる外国語活動の模索—」
講師: 森田卓先生(岸和田市立八木小学校教諭)

第一回目は、筑波大学名誉教授の島岡丘先生を講師に迎え、「英語の音に慣れ親しもう」をテーマに開催。

昔の英語の母音は現在の日本語と同じ5つの母音で構成されていて、日本語と英語の音は根本でつながっていること、徳川家康を思い浮かべて「イエヤス」と言うと自信を持って“Yes!”と答えているように聞こえることなどを解説。カタカナの表記を工夫することで、発音記号を知らなくても英語らしい発音ができること等、一般に英語の発音が苦手な日本人にも自信を与えてくれるような知識や指導方法が紹介されました。

研修会終了後のアンケートでは、多くの方から「ユーモアにあふれた内容で、あっという間に時間が過ぎた」「最新の知識に触れることができ大変貴重な経験だった」「機会があったらぜひまた参加したい」などのコメントが寄せられました。



第二回目は、西宮市立高木小学校主幹教諭の東野裕子先生を講師としてお迎えし、「学級担任が進める課題解決型(プロジェクト型)外国語活動—児童が意欲的に取り組む活動を目指して」というタイトルでお話をいただくとともに、ワークショップ形式を交えてプロジェクト型外国語活動についての理解を深めました。

児童に対するニーズ・アナリシス、実践を支える理論、課題(タスク)を用いた外国語活動の実践例、検証された効果、教材の作り方など役に立つヒント、評価の仕方など、外国語活動を体系的に捉えるためのいくつかの視点が設定され、視点ごとに有効なアドバイスをいただくことができました。

外国語活動を行う学級担任に必要な力は、英語力よりも、ひとりひとりの児童をよく知り生かし伸ばせる力、児童主体の活動を大切にする単元や年間指導計画を立てられる力、刹那的な楽しさではなく達成感や充実感を伴う楽しさを感じさせることのできる力なのではないかと感じさせてくれる研修会となりました。小学生は、プロジェクト型外国語活動を通して、英語スキルという枠に収まりきれない様々な経験や素養を身につけていくのだ

ろうと思わせる実践の数々でした。

また、この研修会は、「小中の連携を実践を通して考える」またとない機会となりました。ワークショップの活動を経験する過程で、小学校の先生は中学校の英語の先生が活動を行う様子から、英語を使って児童とインタラクティブするコツを学ぶことができます。一方、中学校の英語の先生は、小学校の先生の生徒をひきつける授業力や児童生徒とかかわる教育力に感心するようです。英語教育は小学校の外国語活動から始まるということを、すべての校種の教員がもっと強く意識した上で、英語教育の在り方を追究していくことはとても大切なことなのだと思えました。

第二回研修会を通して（特に横手会場にて）、「小中高の連携を視点の核に据えた英語教育」のために、実践的具体的活動を盛り込んだ研修会を実施することが、秋田大学英語科教育学講座の貢献すべき点ではないかと、思いを新たにすることができました。



第三回目は、「外国語活動を楽しもう」をテーマとして、岸和田市立八木小学校教諭の森田卓先生を講師としてお迎えし、「楽しく、気どらず、のびのびと行う外国語活動ー子どもも教師もいっしょに楽しめる外国語活動の模索」というタイトルの下、ワークショップを交えた形で先生の外国語活動の実践をご紹介します。研修会の前半は、教員の多忙化や「教えこみ」の重視が進むなど、現代の教育が抱える問題の紹介や、勤務校の児童の学力の実態や地域の環境の問題、これまで外国語活動に対する指導の積み上げや協力体制がないこと等、勤務校が抱える様々な困難についてお話いただきました。また、その状況の中で外国語活動中核教員を担当した森田先生が、子どもたちに外国語活動を楽しんでもらうために、また外国語活動を通して学級の雰囲気良くしたり、子どもたちの成長を促すために、「日本語でやっても楽しい学級活動を外国語(英語)でやってみよう」という方針を作成したこと、また指導計画の作成にあたっては子どもたちの実態をふまえ、気持ちの表現を重視したことについてご紹介いただきました。研修会の後半は、森田先生が勤務校で実際に行っている様々な活動について、①ウォームアップ、②ポキャブラリー、③スピーキング、④リスニング、の4つの面から、参加者に実際に体験してもらう形で実演していただきました。クラス全体で行う「チームワークの輪」や子どもたちに身近なイラストから英単語を探す活動など、日

本語で行っても楽しめる活動を、子どものどんな発言も大切にしながらユーモアを交えて楽しい雰囲気の中で行う授業には、参加者も次第にひきこまれていっている様子でした。終了予定時間を大幅にオーバーしたにもかかわらず、参加者からは「電子教材の活用や簡単にたのしくできるゲームや活動の紹介があり、とても参考になりました」「是非また森田先生のお話をききたいです」など好意的なコメントをいただきました。



末筆となりましたが、今回の研修会の実施にあたりご協力いただいた秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、中央教育事務所、北教育事務所、南教育事務所、横手市教育委員会の方々には心より御礼申し上げます。

◆ 秋田大学での取組み

「外国語教育資料相談室および教員養成機関」としての大学、「外国語活動の教育現場」としての小学校、「海外教員研修機関」としての大学間交流協定大学、「教育者間連携推進機能」を担う地方教育委員会の4者による連携組織「外国語活動」総合教育システムを構築し、外国語活動を発展させると共に、教員養成・研修を充実させる取組みを展開しています。地域における信頼関係に裏付けされた確かな連携により、発展途上にある「外国語活動」を進化させることを目的として、下記の3点を実施しております。

1. **研修会による情報提供および情報交換の場の創出**～日本語での研修ですので、気軽にお越しください。
2. **教員の方々の研修の場の提供**～教授資料の紹介、コンサルタントによる個別相談の受付、海外研修（平成24年度数名派遣予定）の実施とフォローアップなど、教員の方々をサポートします。
3. **教員の方々と教員を目指す学生の相互補助的な協力関係の創出**～外国語活動を実施するに当たり英語科の学生の協力要請があればお受けいたします。また、大学の授業の一環として学生の参観授業および補助係りとしての授業参加の機会をお願いできればと思います。
(秋田県教育委員会、秋田市教育委員会からの理解と協力を得ております。)

ご質問、ご相談等気軽にお問い合わせください。
問い合わせ先：秋田大学教育文化学部 教科教育学講座
佐々木雅子 (tel/fax: 018-889-2638)
e-mail: shimazak@ed.akita-u.ac.jp
若有 保彦 (tel/fax: 018-889-2639)
e-mail: wakaari@ed.akita-u.ac.jp

Updates

英語が English as an international language としてより強く認識されていくにつれて、英語を学ぶ対象というよりも、使う対象として意識する方々が増えてきています。そのような方々のニーズに応える講座の一つをご紹介します。

講座名：「続・観光英語」

内 容： 大学コンソーシアム主催 社会人講座

(市民公開講座 教養系 於：カレッジプラザ)

「英語、インターネットで学ぶ秋田の観光、Welcome to Akita!」の続編 秋田の観光(英語版)の研究および発信、英会話のマスター、海外研修のシェア(プレゼンテーション、質疑応答は、原則として英語で行う。)

講 師： 渡部 アヤ子(秋田英語英文学会 副会長)

期 日： 平成23年度 毎月第4日曜日 13:30~15:30

(ただし、会場の都合、講師の都合で変更あり。)

場 所： カレッジプラザ(明德館ビル2階)

Conference in 2012

来年度の秋田英語英文学会平成24年度大会は、第31回東北英語教育学会秋田研究大会との合同開催の形態で開催されます。

テーマ:「文法指導を言語活動と一体的に行うための指導法を探る」~英語教育が外国語活動からはじまることを意識し、新指導要領のねらいを実現するための大会となるようにとの期待を込めて設定したものです。

日時:平成24年6月24日(日)9:30~16:30

9:30~9:45 開会式

9:50~11:30 研究発表

12:30~12:50 総会

13:00~14:30 シンポジウム

テーマ「文法指導を言語活動と一体的に行うための指導法を探る」

14:40~16:00 特別講演

中嶋洋一先生(関西外国語大学 国際言語学部 教授)

16:00~16:10 閉会式

場所:カレッジプラザ 無料駐車場有

(明德館ビル2階 秋田市中通2丁目1-51)

研究発表募集(通常の募集時期と異なります。)

研究発表を希望する会員の方は、平成24年1月31日(火)までに下記の連絡先までお知らせ願います。

連絡先:佐々木雅子研究室 (tel/fax: 018-889-2638)

e-mail: shimazak@ed.akita-u.ac.jp

訂正とお詫び

先号 No.11 の5頁目左側の下段に誤りがありました。「多くの票を得た6句」として、6句あげておりましたが、正しくは、多くの票を得たのは7句でした。そのうちの最初の2句について改めてご紹介いたします。最初にあげた句は、蛭田氏の作品ではなく、佐藤康氏の作品でありました。蛭田氏の俳句は記載されておりましたが、加えて、俳号の漢字に誤りがありました。下記のように訂正し、佐藤氏、蛭田氏、そして読者の皆様に深くお詫び申し上げます。なお、次の5句(村上氏、幸野氏、Hook氏、Anonymous、千葉氏の句)については訂正はありません。

(正)多くの票を得た7句

□ Hidenori Hiruta 蛭田 秀法

Old bookworm

ponders between lines...

snow country

雪国や行間に住む本の虫

(prize-winning from Akita International Haiku Network

秋田国際俳句・川柳・短歌ネットワーク賞)

□ Yasushi Sato 佐藤 康

With shorter days

Moslems hurriedly walking

to go to pray

短日や祈りに急ぐ回教徒

(prize-winning from Akita Association of English Studies

秋田英語英文学会賞)

「秋田英語英文学会」入会の問合せ先

手続き方法をお知らせいたしますので、下記にご連絡いただきますようお願いいたします。

事務局長 大西洋一 (tel/fax: 018-889-2634)

e-mail: y-onishi@gipc.akita-u.ac.jp

Editor's postscript

It's always exciting to encounter new people and experience new things, particularly when we get some inspiration from them. Adrian sensei's research and Ueda sensei's report from Boston would be surely among them to you as well. "Foreign Language Activities" at elementary school is one of the hottest issues in English education. We hope this issue has given you some useful information. Warm yourself so as not to catch cold. (Masako SASAKI)

Editorial board: Yoshimi MIYAKE, Yukiko UEDA, Masako SASAKI